

研究結果報告書

研究結果

1896 - 1911 年期間における日本科学書籍が中国に翻訳された全貌を世間に展示させるために、原始資料の発掘は一番大事なことである。

そのために、南京市内の図書館ばかりでなく、北京、上海、瀋陽、長春、長沙、杭州などの地方の図書館或いは大学の図書館で珍しく保存された清末の史料を探した。主に当時出版された雑誌、新聞の原物や翻訳された本及び留学生が派遣された状況についての記事など調べた。そして、日本の東京大学、早稲田大学などの図書館でも日本政府が中国に対する積極的な政策、中国留学生が日本での生活、翻訳活動を反映する日記や記事、当時中日交流の記録史料なども沢山収集した。論文を書く土台を築いた。

資料の研究と分析を通して、マクロとミクロ的歴史視点から、論文を 3 篇発表した：

1) 「晚清日文书籍中译的社会背景及原因分析」では清末における日本書籍を大量に訳された原因及びその社会背景を分析した。下記の六つの面から纏めた：1) 洋務運動の失敗；2) 中日両国の科学地位の逆転；3) 維新者の推力；4) 文化同源及び地理的、言語的な優位性；5) 日本留学ブームの助力；6) 日本から積極的な態度などである。

2) 「晚清日文书籍的翻译对国人科学观念的影响」では日本訳書から中国国民の観念への影響を述べた。日本書の大量流入は中国国民を自国の落伍、日本は西洋文明を先に導入し、近代化へ進んで行った事実を認識させ、中国国民の科学観念を転覆的に切り替えた。

3) 「如何看待“西学东渐”的语境下日语外来词对现代汉语的影响」では訳書を通して、新語彙が日本語から沢山中国語に融合し、現代中国語の一部になった。現代中国語の文法もその外来語の影響も大きいと論じた。

当研究は 1896 - 1911 年における日本経由翻訳された西洋学は中国の科学技術史と社会発展史に重要な役割を果たしたという結論を固めた。研究するうちに、研究の意義と面白さをしみじみ感じてきた、研究をさらに深くいきたいという意欲が強かった。

最後、貴財団から貴重な援助をいただき、研究を順調に進めてきた、心よりありがたく感謝する次第である。

研究を通して、1896 - 1911 年間、日本経由翻訳された西洋学は中国の科学技術史と社会発展史に重要な役割を果たしたという結論を固めた。纏めは以下の通り：1、中国近代化の速度を速めた。2、中国と西洋の文化交流上の言語差し障りを減らした。

3、中国に新式的な翻訳人材を養った。4、中国人に新たな角度から中外文化を念入りに見させ、理解させた。5、新名詞が多く生み、中国語の進歩と発展を促進した。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「文化传播对社会发展的影响」 王鹏飞 中国日语教学研究会江苏分会 2010 年会暨日本学新动向研讨会 2010 年 11 月 20 日 南京大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「晚清日文书籍的翻译对国人科学观念的影响」王鹏飞 《科教论坛》2011 年 9 月
「晚清日文书籍中译的社会背景及原因分析」 王鹏飞 《科技创业月刊》2011 年 12 期
「如何看待“西学东渐”的语境下日语外来词对现代汉语的影响」 王鹏飞 《商情》2011 年 23 期

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

予定:

書物出版: 清末における日本科学文献の中国への翻訳と影響